（2）現在の東北放射光計画の詳細説明　（東北大学　濱教授）

［質疑応答］

水木：費用はどのくらいになりそうか。

濱：250 億。ビームラインは全部じゃなくて数本、先行ビームラインを含めてその値段でしたいと考えている。

尾嶋：去年の 5 月にここで公開シンポジウムをやって、その時に計画を伺って、ユーザーから見て非常にアトラクティブな計画であると。ただし、いくつかよく分からないところがあって、それは中間まとめにも書いたのだが、建設・運営の主体、予算、運営形態、サイトの選定とか、そこらへんが分からないところがあった。先ほど、どこか東北の田舎のほうにということを言っていたが、7 つの大学が一緒にやっていくということで、具体的に概算要求をやる主体はどういう形で決めていくのか。

濱：昨年の要望書に我々のお願いとして、経験を持っている研究組織ということで理化学研究所に、概算要求も含めて主体をお願いしたいと思っている。それに我々7 大学が組織化したものを作って出来たらと思っているが、今はとりあえず東北大学の中で専念できる人を確保しようと思っています。
サイトについては決まっていない。誘致しようとしている市町村がいくつかあり、今も山形大学、米沢は候補地として忘れないでという風には言われている。ただ、これについては全体が決まってからのほうが良いであろうと。どこに作るかというそれで駆け引きがあるようでは駄目で、兎に角作ることが大切なので。候補地は候補地としてきちんと精査していくつもりではいるが、地盤の問題とかもあるので、そういうことも総合的に判断してゆっくり考えていこうと思っている。

小林（KEK）：これはあくまでも、復興のために作るということなのか。

濱：復興の一つのシンボルにもなるだろうというものであって、復興するためにこれをやっているということではない。３GeV のものが必要であるからこそ。

小林：東北の復興予算ということでもない。

濱：それは違う。

大門：ユーザーの立場から非常に良いリングだと思うが、前に東大計画が出来なかったのはやはり人間が、オペレーションするために色んな部局から何人さけるかとかそんなこともあって。これだと 7 大学から。。。

濱：その考え方は違う。あくまでも動かす主体は理化学研究所である。それに協力するのが東北の 7 大学のやれるところ、ということである。もちろんそれも含めて組織化出来れば一番良いだろうと思っている。

大門：では、全国共同利用みたいなものを考えているのか。

濱：それは当然である。

村上：建設母体が理研か。

濱：理研がやると決まっているわけではなくて、我々が理研にお願いしているという事である。

村上：運営もか。

濱：運営のやり方はたくさんあって、JASRI という組織と同じようにやるのか、あるいはまた違う受け皿を作るのかという。

村上：理研はお願いされている状況で、理研としてはどういう形の答えを今はしているのか。

石川：まだファイナルまで行っていない。今の答え方は、今の予算に食い込まない形だったらば受ける用意がありますよ、という答えをしている。

村上：一方で放射光コミュニティのほうから、マスタープランのほうに理研と KEK がうまく協力しながらオールジャパンでやってほしいというメッセージがありましたので、それを受けるということで、オールジャパンの一員として協力したいというのが私の最初のメッセージだったのですが。

濱：それについては例えば分室を作るというのをやってみたらどうかと思う。最初はビームライン１つ２つ。そこから一緒にやっても良いのではないかと思う。もちろん建設期に一緒にやることがあれば、加速器の小林さんたちなんなりとやることはあったら、それはそれで僕は非常に良いことだと思う。
村上：今後色んな形でオールジャパンの体制を築いていくというのは、実現させるためには重要なので、色んな可能性を考えながら、ぜひコミュニティ、この学会が中心になって引っ張ってもらって、全体をまとめるということをお願いしたいというのが私の最初のスライドにも書いたところだ。

水木：最初の村上さんの話の中で KEK が協力するという、協力といっても KEK が独立に、独自にやるわけではないはずなので、どういう形で協力していくかというのはこれから Go となった場合には色々あるだろうけれども、コミュニティとしては兎に角早く３GeV 高輝度光源が実現するというのが非常に大切なので、それに向かってどういう形でそれぞれの組織が協力しあえるかというのが本当に重要だと思うので、難しい点があると思うが、ぜひそれを進めていただきたいと思う。